

## 緒 言

人類の歴史にも罕なる社會的、經濟的並に政治的變化を経つゝあるのが、今日の支那である。古き傳統を誇り單獨の發達を遂げた老大國も、今や急激にその生活を改變して、世界諸國の仲間入をしようといふのである。地理學は、この複雑なる變化の惹起する諸種の問題を解決し得るとは敢て云はないけれども、支那變遷劇の行はれて居る環境の幾分を提示することはできる。殊に、人間生活が自然界と極めて密接なる關係にある支那の如き國柄に就ては、地理を熟知しておくことは、其の國に起る事件を理解するために根本的必要事である。

支那に關する書物は、汗牛充棟も當ならざる程であるが、人口、農業、資源、地方々々の可能々力についての事實正確なる知識を興ふるもの少なく、此等の問題に就て正鵠を失せず取扱ふといふことは、尙ほ幾多の年月を俟たなければならぬのである。小區域についての批判的、地理學的、實地調査研究は、殆ど全く缺如してゐる。支那の人文風景を正しく描寫するには、環境を成す諸要因の分析、文化型及其の分布に關する研究、歴史的傳統に關する理解を組合さなければならない。然し本書に於ては、不幸にして、これらの本質的、部分的研究の結果を手に入れることができないために、止を得ず、多少の據り處を基として概念を得たものもあるが、集め得る限りの資料を検討利用するに努力を惜まなかつたつもりである。

本書は、十年間に亘る旅行踏査の結果生れ出でたものである。實地踏査は、一九二三年、著者が、上海大學地理學教授として招聘を受け、その赴任の途中、ゴビの沙漠を横切つて、支那に入つた時から始まつたのである。それから六年間に、著者は、三萬哩の旅行を試み、支那二十八省中、雲南、四川、西康、新疆、福建の五省以外、總ての省を、少しづつでも見て來たのである。また本書に分割敘述した十五の地理學的地方中、全く足を入れなかつたのは、赤盆地及び西南臺地の二つに過ぎない。其の間、幾多の困難に遭遇した。匪賊或は内亂の爲めに、屢實地踏査が妨害せられ、内地の旅行は容易なものではなかつたのである。

研究の結果を、最初、謄寫版刷で一九二六年から一九二八年の間に發表したが、一九二八年、書物の形にして出版すべく、稿を改め始めたのである。上海商務印書館で、“The Geography of China”の標題で出版するつもりであつた。しかるに、諸種の事情で、印刷に手間取り漸く出来上らうと云ふところに、一九三二年初の上海事變が起つて、商務印書館の工場は、日本軍の爲に破壊されてしまつたのである。その爲め、地圖も寫眞も失はれ、再び初めから書下し、編纂更へをしたのが本書である。

“China's Geographic Foundations” (本書英文題) は、西洋人の爲めには勿論支那人自身の爲めにも、支那といふものを正解せしむるために多少の貢獻をなすであらう。萬一著者の中華民國に對する眞實こめた友情が十分表はれてゐない個所が有りとなれば、それは、支那の最善の點を記すと共に、平均した狀況を描出し、以て、支那國民生活を包む環境の制限が、極めて大切なことを力説せんとした結果に他ならない。

本書完成までの多數の人々の助力に對しては感謝の言を知らない位である。參考に用ひた各書には多少とも負ふところであり、之が引用を許し、寫眞を提供せられた人々に對して深く感謝する次第である。上海大學の教授、學生諸氏、支那の學者並に歐米の諸學者に負ふところ亦多大である。余を派遣したる米國ベアテスト傳道協會、其の他在米の諸學會の興へられたる便宜に對しても満腔の謝意を表するものである。

シラキニース大學にて

一九三三年十一月

ジョージ・バブコック・クレッシイ

George Babcock Cressey

## 譯者言

支那及滿洲に關して、正鵠なる知識を持ち、公平なる理解を深めておくことは、吾々日本人にとつて最も大切なことである。然るに、支那について書かれた物の多くは、或は其の一部、片鱗を傳へ、或は、一つの特殊目的のためにせるもの、過當に重要視したるもの、殊更に安く評價したものであつて、支那眞實の姿を見せると思はれるものが少ない。

また稍公正に地理的或は政治的に記録せるものは有つても、單なる平面的記録であつたり、一時的の現象を捕へたものに過ぎないものも有る。

前上海大學地理學教授にして、現に米國シラキューズ大學地理學科主任教授であるクレッシイ博士の著を手にするに及んで、譯者は、眞に公平無私の學者の立場に立ち、研究的良心を以てせる支那及滿洲に關する記録を得たるの感銘を受け、而も原書の高價なる爲め、我國一般讀書界に普及するの困難なるを思ひ、不文を省みず、こゝに譯出を敢行したのである。原文は簡潔、明瞭、よく事物の要點を抽出して、些の冗長の文字をも止めてゐない。随つて、譯文も亦逐字譯を試むるほか無く、餘り碎いた文章になり得なかつたことは原書載するところの二百に近き寫眞の全部を採り得なかつた事と共に深く遺憾とする。

滿洲に關する部分が滿洲國建設前の計畫に成れるの故に、特別な取扱を受けてゐないのは残念であるが、

然し事件の成行を眺めつゝ、かくも冷靜に記述したことは注意に値ひする。

本書刊行については、稻原勝治氏の一方ならざる好意、小澤正元氏并に尾崎秀實氏の懇切なる助言に對して、心よりの感謝を捧げる。

昭和十年四月

高 垣 勳 次 郎

# 支那滿洲風土記 目次

第一章 地理概観	一
一 支那の土と人	一
二 支那の孤立	五
三 新舊對照の支那	八
四 北部と南部	三
五 人口の重壓	六
六 交通の新舊	六
七 支那を理解する	七
第二章 地勢、即支那の舞臺裝置	三
一 地理的根柢	三

二 山 岳 の 地	102
三 河 川 動 脈	100
四 沖 積 平 原	104
五 線 取 る 海 洋	102
六 變りゆく支那地圖	106
第三章 氣候・人間活動の鍵	106
一 支那の氣候機構	106
二 地 方 別 氣 候	111
三 氣 候 と 人 間	106
第四章 四萬年の百姓	106
一 農 村 風 景	106
二 農 業 の 土 臺	111
三 耕 作 地 面 積	106
四 收 穫 高	102
五 支那の農業問題	111
第五章 支那の天然資源	114
一 歴 史 的 背 景	114
二 最大の原動力石炭	119
三 其他の貯藏力源	114
四 物質文明の建築材鐵	120
五 其 他 の 金 屬	114
六 金 屬 外 資 源	114
七 支 那 の 鐵 産	114
八 工 業 の 前 途	114
第六章 世界との接觸	111
一 歴 史 的 背 景	111

二	輸 出 貿 易	185
三	輸 入 貿 易	186
四	貿 易 展 開	187
五	世 界 へ の 門	188
六	支 那 の 商 業 隣 國	189

## 第七章 北支那平野……………190

一	河 川 の 賜 物	190
二	人 生 の パ ノ ラ マ	191
三	境 界 線	192
四	土 と 水 と に 依 存 す る	193
五	農 業	194
六	人 民 の 生 活	195
七	北 支 那 平 野 の 都 市	196
八	交 通 機 關	197

九	飢 饉 の 地	198
---	---------	-----

## 第八章 黄土高地……………199

一	地 勢	199
二	黄 土	200
三	大 陸 的 の 氣 候	201
四	畑 農 業	202
五	人 種 の 色 々	203
六	地 震 の 地	204
七	主 要 街 道	205
八	埋 れ た 富	206
九	森 林 の 悲 劇	207

## 第九章 山東、遼東及び熱河の山……………208

一	地 勢	208
---	-----	-----

二 人 跡	1130
三 氣 候	1131
四 農 業	1131
五 消 え ゆ く 森	1131
六 鑛 産 資 源	1131
七 陸 から 海 へ の 通 路	1132

## 第十章 滿洲平野 1132

一 位 置	1132
二 歴 史 的 背 景	1132
三 新 舊 交 通 機 關	1133
四 移 入 民	1134
五 刺 戟 的 の 氣 候	1134
六 發 展 し ゆ く 農 業	1135
七 北 米 と の 類 似	1135

八 將 來 如 何	1135
-----------	------

## 第十一章 東部滿洲の山脈 1135

一 外 貌 の 一 般	1135
二 人 跡 未 到	1135
三 森 林 及 鑛 山	1135
四 氣 候	1135
五 農 業	1135

## 第十二章 興 安 嶺 1140

一 地 理 學 的 外 貌	1140
二 材 木 と 金	1141
三 人 間 入 る べ か ら ず	1141

## 第十三章 中央アジア草原及沙漠 1141

一	沙漠の犠牲	124
二	其の位置	125
三	氣候狀態	125
四	草で繋ぐ命	126
五	草原の牧羊者	126
六	隊商路	126
七	政治的背景	127
八	農業の將來	127
第十四章 中央山脈地帯		127
一	中間地方	127
二	外觀風光	128
三	境界	130
四	揚子江峽谷	130
五	住民	130

六	交通	130
---	----	-----

第十五章 揚子江平野		130
一	河と運河の地	130
二	洪水の脅威	131
三	不規則な境界	131
四	交通機關	131
五	氣候的背景	131
六	土地の利用	131
七	絹	131
八	支那の玄關・上海	131
九	武漢、南京、蘇杭	131
一〇	揚子江平野の指導的地位	130

第十六章 四川省赤盆地		131
-------------	--	-----



一	周圍の地形	三四
二	濕つた溫暖地	三四
三	農業の發達	四六
四	成都平野	四五
五	鑛物資源	四四
六	赤盆地の旅	四四

## 第十七章 南揚子江山地

一	山の天然圓技場	四四
二	氣候狀態	四四
三	住民	四四
四	谷底の農業	四五
五	茶	四四
六	自然資源	四四

## 第十八章 東南海岸地帶

一	海岸、谷、河口洲	四六
二	人間と海	四六
三	暑い濕つた氣候	四六
四	農業	四六
五	人	四六
六	客家民族	四六
七	森林	四六

## 第十九章 兩廣の山地

一	山と河	四〇
二	土地柄の統一	四〇
三	熱帶的氣候	四四
四	土地の活用	四四
五	資源	四六
六	水運、陸運	四〇
七	廣東河口洲	四〇

八 廣 東 對 香 港	三六
九 進 步 的 精 神	三九
第二十章 西 南 臺 地	三九
一 切 裂 か れ た る 臺 地	三九
二 人 類 學 博 物 館	四〇
三 氣 候 溫 和	四〇
四 農 業 狀 態	四一
五 陸 路 の 旅	四〇
六 貧 源	四一
第二十一章 西 藏 邊 境 地	四一
一 そ の 環 境	四一
二 高 原 へ の 道	四二
三 政 治 的 背 景	四二
四 住 民	四三

總 統 計 表	四四
索 引	四七

寫 眞 並 插 畫

山 東 省 曲 阜 の 孔 子 廟	四四	庫 倫 の 大 喇 嘛 寺 院	五二
古 北 口 附 近 の 萬 里 長 城	四四	揚 子 江 大 峽 谷	五四
萬 壽 山 頤 和 園	五〇	大 運 河 (嘉 興 附 近)	五六
祖 先 代 々 の 墓 の 群	五〇	東 南 海 岸 通 ひ の ジ ャ ン ク	五六
北 支 那 の 百 姓 家	五〇	四 川 赤 盆 地 の 段 々 水 田	五七
黃 土 の 山	三三	南 支 那 の 百 姓 家	五七
黃 土 の 穴 居 村	三三	福 建 省 福 清 の バ ゴ ダ	五八
草 原 の 羊 群	五五	雲 嶺 山 脈 (支 那 ア ル プ ス)	五九
シ ベ リ ア 境 の 蒙 古 騎 士	五五	支 那 の 最 高 峯 ミ ン ヤ ・ ゴ ン カ ー	五九
蒙 古 人 の 天 幕 構 造	五六	秦 嶺 山 脈	五九
蒙 古 人 の 天 幕 內 部	五六	西 藏 の 女	五三

支 那 滿 洲 地 勢 地 圖

春逝き夏過ぎて、秋の日は照る。  
 父祖の家に黙然と壁に向つて立つ  
 てゐるのは、百姓の息子である。彼  
 の腦裡を過るは、米麥と水、否、たゞ土  
 である。一握りの土を掴み上げた  
 彼は満足の微笑を湛へた。五指の  
 間を洩れる土には生命がある。己  
 もやがては此の土の中に埋められ  
 るのである。土は靜に彼の來るの  
 を待つてゐるのだ……

P. S. Buck, "The Good Earth."

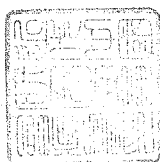
## 支那滿洲風土記

### 第一章 地理概観

#### 一 支那の土と人

支那人の根は地中深く喰ひ込んでゐる。丹念に耕された農園、人の手で刈り取る收穫、土造りの家、一つとして、自然と人間との密接な關聯を物語らぬものは無い。何方を向いても、ガツチリした農民が、小つぽけな畑から、足るや足らずの糧をもぎ取らうとセツセと働いてゐる。竹籬や柳の林の間に無數に群がる百姓家は、土を被ふ人間の稠密さを思はせ、到る處に散在する墳墓は、この老國土永年の傳統を偲はせる。

支那風景の第一の要素は、山川草木風雨ではなく、實に民衆である。どこもかしこも人、人、人である。この古い國土に、人間と彼の活動の跡を留めない處は罕である。人生が彼を環る自然界の大きな影響を受けたのが本當なら、自然界が、人の力で形を變へられ、加工せられ、人間の刻印を捺されたのも否み難い事實である。支那風景は、恰も土と其處から生えた木の如く密接に結ばれた人との結合體である。人間と、それか



ら、自然とが、別々の現象として存在するのではなく、単一な有機的全體として、總てを包含する「結合體」を形成するほどに、人といふものが地に根を深く下してゐる。田畑にニコ／＼働く百姓達は、起伏する丘と共に、自然の裡に融け込んでゐる。そしてまた、町寧に耕された稻田は、人間パノラマに缺くべからざる一要素である。

寫眞にとつた位では、支那の人間と土地との固く結ばれた様々の聯繫を描き出すことは出來ぬ。眼に寫る景觀の經緯十文字に、關聯の無數の絲が織込まれてゐるのだ。たゞ見る凡ての景色は、幾多の要素の密な細工であり、或は降雨の多少により、或は土壤の質により、或は傳統の力に左右されて、しかも、これら凡てが相互運接して、生き／＼した綜合風光を形も造る。是等の關係を詳述、解明し、廣汎なる資料から知識を抽出し、特定地域の了解に役立つべく、それに新たな意義を與へることが、地理學の任務である。この活けるパノラマこそ、人文風景を形成するものである。

土地が廣いと云ふことに、更に歲月の長さを計算に入れなければ、充分に支那を理解することは出來るものでない。支那人文風景の種々相は、長期に亘る進化過程の規整を経て來たものである。太古に於て既に人間は到る處、工具の力の及ぶ限り、自然界の資源を活用したのである。幾十世紀に亘る飢饉と侵略とは、土民を驅つて、生命の繋げる限りの邊鄙の奥地へまで追ひ詰めたのである。代々の實験から、最大限の收穫法を發見し、最も満足な社會關係を生み出したのである。經濟植物學の用語によつて、支那を、最高度形成に近

いものであると稱し得るほど、その地理的環境に對する人文型の密着適合は完全なものである。こゝには、古びた凝固した文化が、天然資源をば、最後の一塊まで利用してゐる。新たな外力が刺戟を與へない限り、内的變化は起り得ない。

支那は動いてゆく。今日見る姿は、過去を知つて初めて了解し得る長い映畫の一つの場面に過ぎない。支那の景色は、面積と同様、時間に於ても廣漠たるもので、現在、永い時代の所産である。地球上の同じ廣さの國土の何處をとつても、支那の原野ほど、夥しい人間の生活して來た所は無いであらう。文字通り億兆の男女が、丘陵峽谷の輪廓、田畑の狀型に寄與貢獻したのである。土砂にさへ彼等の遺産は残る。

支那人及びその文化の起源は不明である。中央アジアに發達したと言ふ者もあるが、然し支那人については、遊牧時代乃至は農業時代前に關するものは、傳説にすら残つてゐない。或は、今居る土地から發生進化したものではあるまいか。一九二八年北平附近に於て、北京人種即ちシナネンシス・ペキンエンシスが發見されたことは、少くとも支那に人間が初めて棲息したのは、地球上の他の何れの地方にも劣らず、古いことであるといふ説を強めるものである。

然し今日迄のところ、石器時代文化については斷片的な考古資料が發見せられたに止まる。石器時代の社會は、大體自給であつて、器具を製作する適當な材料を持たなかつた爲に、進歩を妨げられてゐたらしい。殊に東南アジアは、家畜として手なづけるべき動物や、蔬菜にすべき植物にこと缺いて、其爲に、文化の發

達が後れたのである。この點については、シー・ダブルユ・ビショップが指摘してゐる。

『有史以來支那の土著民が目立つた進歩を遂げたのは、例外無しに、他の文化を借りた時である。今日諸方の隔離せられた地方に生活してゐる集團は、自分の努力で進歩することが全然不可能な状態にある。アジアの東南部にあつた後期石器時代の民族は、支那人類似のものをも含めて、ある一定の限界以上に進歩することの許されないやうな、頑固な融通の利かない人文型を作つてしまつたのである。此型は、その環境に適應したものではあつたが、外界からの刺激に助けられなければ、到底自分の型から逸脱することの出来ない慣例に固まつてしまつたのである。かうした文化現象は世界歴史に屢發生したものである。それが今の支那に於て、前代未聞の大規模に、繰返へされてゐるのである。』

支那歴史の古文書によれば、記録は西紀前二十世紀の傳説的な夏の時代に遡る。その頃青銅が西域から輸入されたのである。次が西紀前五百年の半歴史的な舜の時代、千五十年の周の時代と云ふ順序になる。初めの二朝の記録は支那の批評的學者達の間に大なる疑問が掛けられてをり、信すべき記録として最も古いものは西紀前千二百年の『河南の神託の骨』であると思はれてゐる。

西紀前二百二十年秦の始皇帝が覇を唱へる迄は、支那は北支の諸封建國家の一團に過ぎず、西紀前二百六十年の漢朝までは、全土を支配する政府といふものは無かつたのである。それから後も、政治から見た支那は、絶えずその版圖に變化が有つた。三十世紀に及ぶ支那歴史は、統治の繼續では無く、むしろ文化の傳統を



山東省曲阜の孔子廟



北平の東北、古北口附近の萬里長城

引きついたのであり、政治的才能の産物よりも、統一力を持つ地理學的諸要因の産物を傳へたものである。

永い時を通過する間に、社會の總ての階級に深く植付けられた一種の人生觀が生れたのである。人間交渉が繁くなるにつれて、いやでも各自の人格を尊敬しなければならなくなつたのである。如何なる抽象的眞理も、仁愛以上の價值は認められない。人間の相互關係に於ては如何に其が眞でも、其眞を不親切に口に出してはならないのである。かゝる社會的順應と併行して、人間と環境との適應が有る。『己を修め、運命に甘んじ、四季に従ひ、天を信ぜよ』といふ古諺は、克くこれを説明してゐる。『自然に調和する』といふ精神こそ、最も善く支那哲學を要約したものであらう。

## 二 支那の孤立

その歴史の大部分、支那は世界から離れてゐた。四圍に、外界の交通を妨げる障壁が立塞がつてゐる。これが、外國のことを知らせなかつたと同時に、外國に支那のことを知らせなかつたのである。時々、支那の巡禮者が、印度や、西部アジアに達し、また歐洲の冒險者達が、東洋を窺いて見たことはあつたが、物資や知識の交換は殆んど行はれなかつた。熱帯の鐵地、大山脉、大沙漠、大海洋が一緒になつて、支那の統一と孤立とを保つたのである。支那が自己中心となり、國の名を中華民國と呼ぶも何の不思議あらんやである。

數千哩の海洋は支那を廻る。太平洋も今は妨害にはならぬが、近代船舶時代の來る前は、空漠不氣味な大

する北平—綏遠線、北平—南京間に直通列車を運轉する天津—浦口線、北平—漢口線、北江蘇にある新港海州から西へ陝西の西安に通ずる隴海線、青島と濟南とを繋ぐ山東鐵道等である。また山西に達する狹軌の鐵道もある。これらの多くは北平—天津地方を基點として敷設され、隨つて此の地方は鐵路の便利、大である。

揚子江以南の鐵道は、短く、且散在してゐる。上海には、南に伸びた杭州行のもの、西方南京に達するものがあり、南京で鐵道渡により、天津—浦口鐵道に聯絡する。鐵道の便を驅つて、上海からベルリンに二週間で行ける。廣東からは、三つの短い鐵路が放出し、其一つは、將來南支那と漢口、北支那を聯繫せんとしてゐる。一つの狹軌の鐵道が、雲南と佛領印度支那とをつなぐ。南部は山岳地であるがために鐵道の開通を妨げ、北部支那の平坦な地に多く發達するに至つたのである。

## 七 支那を理解する

支那を本當に理解するには、どうすればよい。支那は、未開と文明とが一緒になつた國である。あまりに巨大で込み入つてゐて、外國人のみか支那人自身でさへ、その全體を知り得る者は、殆ど無いのである。單に地上の風光を充分見届ける丈けにも、數年かゝつて、辛勞強く幾千萬哩の旅をつゞけなければならないのである。況んや、幾百年の傳統を理解することは、殊に、文化の異つた外國人には、更に一層の困難である。十數卷の書物をつゞるも、支那全體を其中に書き込むことはできない。まして僅か數章のうちに、此

古い國土の維多の人間生活を描出することは到底不可能である。

藝術及人間生活について、支那が吾人に與へる最上のものは、けだし北平に於て發見せらるゝものである。北平には、最善の支那が有る。北平辯は、支那の半分位に通用する。北平は學問の泉で、其から全國に流出したのである。黃色瓦の宮殿の屋根、靜な御苑、市壁に開く壯大な城門、崇嚴な天壇、一として團圓した一つの文化を物語らぬものはない。北平に一年住んで見ることは、世界ちう最極上の經驗になる。

然し、支那は、都市文明を持つてゐない。眞實の支那は、田舎にある。此歴史的國土の典型たる純眞さは、百姓の間に見出すことができる。田舎旅行は面白いものだ、と言つても、乗物が心地良いとか、宿屋が素敵だとか、御馳走に有りつけるとか言ふのではない。眞の支那を知らうと欲ぶ者は、困苦缺乏に地ふる覺悟がなくてはならない。其上へ匪賊の難に遭遇しないとも限らぬ。人民の四分の三は農園に住み、殆んど凡ての土地は市城壁の外に有るのだ。本書が、新中心諸都市の日増の貢獻に力を入れること少なしとすれば、それは支那人の大部分が實際生存してゐる地方の幾百萬の生活に、都市の感化が未だ左程波及してゐないからである。支那の如き巨大にして、古く、人口過多の國土に於ては、變化は極めて悠つくりと起るものである。

田園方面は、どんな風か？ 降雨狀態、地質、地形の維多なるために、收穫及び農業方法も處によつて大差が起る。支那田園の最も著しい特徴は、耕地の小規模なことである。田畑は、農園といふより、お庭式に分かれてゐる。北部でも道路は狭いが、南部にいたつては、一と足通である。人口の壓力によつて、活用でき

る限りの土地は、どこもかしこも耕作されてゐる。この國の到る處で、特徴的に目に映ることは、自然に近いこと、生存競争の實在を暴露せる人間努力の極度使用である。支那の諸問題を了解すべく、たゞに人民及歴史のみならず、自然の環境と人間活動が、互に密接な適應を遂げてゐることを看取しなければならない。

今日の支那歴史中、最も重要な事件は、新聞に喧傳せらるゝ、あまりに多き戦争や飢饉ではない。變つて行く軍事及び政治的ドラマよりも、經濟的社會的知識的變化の方が遙に意義深いものである。支那は徐々に動く。彼が、今や漸く自覺しつつある新しい世界制度に充分適應するためには、尙ほ數十年を要するであらう。支那が終局に於て恒久堅固なるべきは疑ふ餘地はない。支那歴史のペノラマに於て、五、六の大朝廷が現はれ、しかも疊疊固々夫々の文化を持つてゐた。此等輝かしい時代の中間には、混亂と紛亂が有つた、それが數十年となく續いたことさへある。支那が、丁度、西洋諸國の衝擊が、ここに突入し来る時期に、たま一つの停滯期に引つ掛つてゐたことは、不運な廻り合せであつた。それ故に、現時は、中國を評價するに、好適な時機であるとは言へないのである。

## 第二章 地勢・即支那の舞臺裝置

### 一 地理的根柢

地勢は、支那ドラマの展開する舞臺を組立てゝゐる。今見る支那の山河沿湖平原の後ろには、往古の狀態が隠されてゐる。グラボヤ (Grabau) は、その基礎について、よく書いてゐる。

『支那の凡ての岩の下に——大平原の砂の底、谷間の底地の黄土の下、支那現在の山々、高原、盆地の大部分を形成する固結した礫岩、砂岩、頁岩、石灰岩等の下に——凡て此等の比較的若い岩石の塊の下に、大陸の礎石を構成する、支那の最古の岩石である結晶質の太古合成地盤が横つてゐる。此合成岩はその發生に於て、凡て上記の岩石に先立つこと、年數や世紀數で數へ得ないほど遠い太古に遡るものであつて、驚くの外はない。人間の年代記が、地球の歴史に適用するにはいかに役立たずであることを、つくづく思はせる。……この太古の岩層は、支那全土の下に横つてゐるのであるが、表面に顯れてゐるのは、比較的少い地方に過ぎない。その著明なものは、いかなる地質學時代にも、海中に沈下しなかつたところの大きな太古地塊である。西藏は即ちその一つで、これは、永遠不變地塊の最も完全に保存されたものと言へやう。この西藏岩層は、僅に、未だ固結しない若い砂、礫、黄土の堆積物、又は一部が海に發生したところ



五、雲南高原型 此地方は、一、〇〇〇から三、〇〇〇米の高地である爲に、氣候は熱帶に少しく加減した程度のものである。年平均氣溫は一四度から一八度、年昇降量は、一二から一五度に過ぎない。年降雨量は普通七五 cm. を超過する。

六、草原型 此地等は、支那本部の西北隅から、南部熱河、チヤハル及び滿洲の西部に亘り、年平均雨量二〇より四〇 cm. 年平均氣溫五度より一〇度。コエッペンの定義によれば、草原と稱すべき地方である。

七、西藏型 海拔三、〇〇〇米以上の高地一帯である。

八、蒙古型 蒙古、新疆、西藏等に於ける氣象に関する資料は極めて貧弱であつて、果して、どれだけが草原であり、どの位が沙漠であるかが、現在のところ分りでない。

各地方の明細な氣候の説明、降雨及氣溫に関する表等は、各當該章節に譲る。

### 三 氣候と人間

氣候の好適といふことは、氣溫、降雨、濕度、風、日光、四期の變化、日々の變化等に基因する。これらの状態については、統計や圖表で示すが、然し、實際それが、如何に感ぜられ、人間が如何に反應するか。支那は健康を助け、精神力を旺盛ならしむる氣候を有するか。支那の多くは、歐洲及米國の主要部分よりも高温である。然しシベリアの影響を受けて、支那は世界の同緯度の國々のうち最低溫の氣候を持つてゐる。

それでも尚ほ、他の指導的の諸強國よりは著しく高温である。南京はワシントンよりも殆ど五〇〇哩南方、ロンドンより一、三〇〇哩南にある。北平の北方に於てのみ、氣溫が、西歐及北部アメリカ合衆國に似てゐるのである。南部支那は、暑熱と重苦しい濕氣に支配せられ、廣東に住む歐洲人は、一年十ヶ月が十一ヶ月も白服を着てゐる。

氣候に變化あることが、精神並に身體活動を助長する要因であることは、エルスワオルス・ハンチントン (Ellsworth Huntington) の指摘したところである。旋風性暴風の連續生起する地方は、平凡な貿易風の地方に缺けてゐるところの、強い刺激に富むものと考へられてゐる。ハンチントンは、世界の氣象状態に基いて、好適の氣候の地圖を畫き、各國の學者によつて判斷された所謂『文明』の分布と對照してゐる。氏の圖によると、最高の氣象的活力の地方として、合衆國及西歐を擧げてゐる。尤も支那の旋風性暴風について餘り知識の無いときに畫かれたものであるから、支那は中位の部類に置かれてゐる。今日の我々の知識に隨へば、旋風性暴風によつて生み出される中央及北部支那に於ける刺激に富む氣象状態の連續は、支那を、もつと高い標準に引上げるべきものであると思ふ。少くとも、寒冷なシベリア風の屢次の進行は、亞熱帶地方の暑氣を緩和する力あることは明かである。

支那の殆んど全國に亘る夏期の高氣溫は、支那人の野心に、直接且念入りの影響を與へると共に、衛生上の困難な問題を提供してゐる。コレラ、マラリア熱其他各種の病氣は、夏期に於ける暑さと濕氣を環境とし

背景として發生するものである。

殊に、人間に關係深い二つの氣候現象が目立つ。即ち北支那に於ける冬の黃塵の暴風と、南支那に於ける夏の高度の濕氣である。北支那の平原と黃土高地は、土地が乾燥して、草の枯れてゐる晩秋から初春にかけて起る砂塵風で有名である。この厚い黃塵雲は、特に北平に於て名高く、北平風とも稱される位である。北平の黃塵は、市内の無舗装の道路から捲き起ることが多い。それが、市中を吹きまわつて、しつかり締切つた家の中まで侵入して、あらゆる家具が、細い土埃で被はれてしまふ。

俗にはゴビの沙漠から起ると想像されてゐるが、事實は、同沙漠からは間接に來るに過ぎない。蒙古の高原は、今日では、細い土埃はもう無くなつてゐる。同高原の風化された砂塵は、疾の害に、南方に吹き寄せられて、厚い黃土層を積上げたのである。これらの黃土丘と、河川の洪水で出來た水氣の無い平原と、無毛の野とが、北支那に上る黃塵の直接の原因である。強風が吹く毎に、細い埃を上げて、それを南方へと吹き送る。故に暴風に伴ふ黃塵は高低は地方々々に起つたものである。

高く上つた黃塵の雲は、時にずつと南の上海邊でさへ見られる。然しこれは、遠い北西の地から吹いて來たのではなく、河南省とか安徽省に起つたものらしい。

梅雨は夏期、揚子江流域及び其の南に生ずる。湿度極めて高く、凡て冷い物には、露がつく。四壁も天井も水がしたより、汗の發散が妨げられる。木の綴目に黴がつき、靴は、一夜にして菌類の類が生える。食物

は腐敗し易く、人の氣持は明朗でない。

支那はどこでも時々大雨沛然として驟る。河南の鄭縣では一九二三年八月、二十四時間内に、四五〇mm.の雨があり、香港では、一八八九年五月、二十四時間内に、七〇七mm.の雨量を記録した。大洪水が突發するのも不思議は無い。夏期、揚子江は定つて數十尺増水し、堤防の上を越すこともある。

『河水が堤防を決潰すると、作物の廣漠たる緑の野は忽ち消えて、四邊はたゞ見る無限の渺茫たる水と化し、所々に、墳墓の樹や、百姓屋の土壁が、頭を出してゐるだけである。水が減ると、現れて來た土地は、黄灰色の無用の擴がり、水を通れた者も、洪水無かりし前は、豊かな收穫を約束されてゐた其の土の上に餓死すべく宣告されるのである。されば支那人が、夏の洪水を防ぐべく、堤防を築くことを、初めて祖先に教へた人を神の如く敬ぶのも無理はない。』

旱魃は更に大きな損害を與へることがある。廣西省の龍州は、二十八年間平均一、二六九mm.の雨があつたに拘はらず、一九〇二年には、僅に一九七mm.の雨量に過ぎなかつた。

支那に於ては、人間の生活が、自然と特に密接である。故に支那人の環境としては、氣候位大切な役割を演ずるものは無いのである。

三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十月	年 平均
-10.4	2.8	10.6	17.2	20.8	19.5	11.7	2.5	-11.7	-24.1
15.3	19.4	23.4	27.2	29.0	29.0	28.1	25.0	20.8	16.1
1.2	9.1	15.3	20.9	23.9	24.5	19.3	12.2	1.8	-7.4
(17.2)	(21.1)	(24.8)	26.9	.....	(27.0)	27.3	24.1	20.2	16.5
10.5	17.0	21.7	26.1	30.2	29.9	25.0	18.9	12.9	6.0
4.4	11.9	18.2	22.7	25.4	25.7	21.6	15.7	8.2	1.6
12.5	17.4	21.4	24.2	25.8	25.8	21.6	17.6	13.1	8.0
1.4	9.1	15.6	20.4	23.8	24.3	19.4	12.7	3.6	-4.1
14.2	19.7	23.1	25.9	28.0	29.1	24.4	19.4	14.8	10.2
1.4	8.9	15.3	20.3	23.3	24.4	14.3	13.2	5.2	-1.7
0.0	8.1	15.3	20.4	22.7	20.9	14.3	6.7	-4.3	-15.2
13.5	18.0	35.5	26.8	28.9	29.1	26.6	22.6	17.7	13.1
10.2	16.6	21.9	26.5	29.7	29.7	24.8	19.2	12.9	7.0
9.1	15.0	20.0	24.5	28.3	27.9	23.2	18.2	11.8	6.0
-7.6	5.2	13.0	18.8	22.0	21.5	14.2	5.0	-6.7	-17.6
17.4	21.5	25.2	27.4	27.8	27.5	26.9	24.6	20.7	17.0
-4.9	4.8	10.9	17.6	21.4	22.4	16.4	9.2	-1.0	-8.7
9.0	15.2	19.9	24.3	27.5	27.8	22.4	16.8	9.5	19.1
11.5	17.6	22.4	26.4	29.0	29.0	24.4	19.2	13.4	8.0
-5.3	6.4	13.9	19.3	22.7	22.4	15.3	5.4	-3.5	-14.5
10.0	16.7	21.9	26.2	29.8	21.9	25.0	19.2	13.0	7.4
-0.4	8.8	16.9	24.2	25.1	23.3	17.4	10.5	0.4	-11.3
3.6	11.6	16.3	21.4	22.8	21.6	16.8	9.3	1.7	-3.8
18.3	21.3	26.8	28.7	28.0	27.4	26.7	23.9	19.5	17.1

測候所	省	北緯	東經	海拔 メー タ	測候 年數	一月	二月
愛媛	黑龍江	49°50'	127°38'	10	6	-25.5	-17.5
厦門	福建	24°27'	118°05'	4	25	14.8	13.5
安東	遼寧	40°06'	124°21'	9	5	-8.7	-4.0
廣東	廣東	23°07'	113°16'	15	5	(13.7)	(14.9)
長沙	湖南	28°12'	112°47'	60	6	6.1	7.5
芝罘	山東	37°33'	121°22'	3	37	-4.7	-0.4
成都	四川	30°40'	104°03'	...	4	6.8	7.8
秦皇島	河北	39°55'	119°38'	3	7	-6.1	-3.3
重慶	四川	29°34'	106°31'	230	25	9.2	9.9
大連	(關東州)	38°56'	121°16'	15	10	-4.7	-3.2
エルシチ エキシテ	遼遠	40°36'	110°30'	1,025	3	-15.1	-9.3
福州	福建	25°59'	119°27'	20	14	11.7	10.9
漢口	湖北	30°35'	114°17'	36	28	4.5	5.9
杭州	浙江	30°11'	120°12'	10	10	4.7	5.4
哈爾濱	吉林	45°46'	126°50'	147	6	-17.8	14.6
香港	(英國)	22°18'	114°10'	32	32	15.8	14.4
琿春	吉林	42°53'	131°18'	104	2	-12.5	-12.7
合肥	安徽	32°22'	116°15'	...	23	3.1	5.2
宜昌	湖北	30°42'	111°16'	518	34	5.6	7.0
吉林	吉林	43°48'	126°22'	210	3	-16.9	-12.0
九江	江西	29°45'	116°08'	20	29	4.7	5.6
公主嶺	遼寧	43°31'	124°48'	203	1	-15.6	-12.6
蘭州	甘肅	38°04'	102°46'	...	9	-6.7	-0.4
龍州	廣西	22°22'	106°45'	266	...	14.0	14.6

表三 平均氣溫 (攝氏)

(主として徐家滙天文臺の報告による)

三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十月	年 平均
-2.0	8.0	15.5	21.0	24.2	23.2	16.5	8.9	-1.6	-10.2
8.3	14.0	19.9	24.0	27.4	27.3	22.6	17.3	10.3	4.5
18.0	22.8	26.7	29.2	29.9	29.9	28.5	24.9	19.3	14.8
8.5	14.9	19.7	23.8	27.6	27.6	22.9	17.6	10.7	4.8
9.2	14.8	19.7	24.0	27.8	28.0	24.3	19.2	13.3	7.7
7.5	14.0	21.3	25.2	26.9	24.8	20.7	12.9	3.8	-4.3
18.2	23.5	27.6	27.7	29.0	28.4	27.8	25.3	20.8	16.8
17.1	21.7	25.6	28.1	28.9	29.3	27.6	24.4	19.2	14.7
9.6	15.3	21.0	24.9	27.3	27.8	23.0	17.8	11.7	6.3
7.8	13.4	18.6	22.9	26.8	26.8	22.7	17.4	11.1	5.6
-0.8	8.8	16.0	21.7	22.6	20.4	15.4	8.4	-4.4	-11.2
16.6	20.6	24.4	27.3	28.5	28.4	27.4	24.2	20.0	16.2
5.8	14.3	21.9	25.7	28.8	27.5	21.4	16.0	6.9	0.4
6.7	12.3	20.8	24.2	27.9	22.6	17.6	10.7	-0.3	-7.8
12.3	15.2	18.0	19.7	20.6	20.2	19.8	16.9	12.8	8.7
4.7	12.7	19.5	23.7	26.1	25.9	20.8	14.2	4.5	-2.4
4.7	10.4	16.1	20.0	23.3	24.9	21.2	16.0	8.1	1.4
11.5	16.3	20.8	24.9	28.1	28.2	25.5	20.9	15.8	10.8
7.7	14.9	21.6	27.1	25.8	.....	20.7	13.8	4.1	-2.2
17.1	21.6	25.9	28.1	29.0	29.1	28.0	24.4	19.4	15.3
9.1	15.3	20.7	24.9	28.1	28.4	23.9	18.6	12.0	6.2
0.1	9.3	16.3	21.8	24.9	24.6	19.0	11.5	1.7	-6.0
8.8	14.6	19.5	23.8	26.2	27.9	21.2	16.1	10.1	4.2
15.5	19.9	31.8	22.1	22.1	21.3	18.8	17.3	13.3	9.7

測候所	省	北緯	東經	海拔 メーター	測候 年數	一月	二月
奉天	遼寧	41°48'	123°23'	44	10	-13.0	-10.0
南京	江蘇	32°05'	118°49'	16	10	3.1	4.2
南寧	廣西	22°42'	108°03'	122	5	14.7	14.3
南通	江蘇	31°57'	120°55'	10	1	2.8	2.8
寧波	浙江	29°57'	121°45'	10	35	5.4	5.4
保定	河北	28°53'	115°28'	22	1	-4.5	-1.2
北海	廣西	21°29'	109°05'	5	33	15.5	14.8
三水	廣東	23°06'	112°53'	10	16	14.3	13.6
沙市	湖北	30°18'	112°15'	51	10	4.8	5.7
上海	江蘇	31°12'	121°26'	7	44	3.3	4.0
シワンツ	察哈爾	40°58'	115°18'	1,167	5	-11.3	-9.3
汕頭	廣東	23°23'	116°40'	4	30	15.0	14.1
大名	河北	36°18'	115°18'	...	4	-2.1	0.5
太原	山西	37°53'	112°29'	805	1	-5.1	-2.7
騰越	雲南	24°45'	98°14'	1,633	5	8.0	9.7
天津	河北	39°09'	117°11'	5	10	-4.1	-1.8
青島	山東	36°04'	120°19'	74	15	-0.4	0.4
溫州	浙江	28°01'	120°40'	3	29	8.3	8.4
蕪湖	安徽	35°26'	114°14'	...	3	-0.4	2.1
梧州	廣西	23°29'	111°20'	10	18	14.1	13.9
蕪湖	安徽	31°20'	118°21'	15	36	4.0	4.9
營口	遼寧	40°41'	122°16'	3	13	-8.7	-6.6
岳陽	湖南	29°24'	113°10'	76	6	4.8	5.4
雲南	雲南	25°04'	102°40'	1,980	2	9.1	10.3

表三 平均氣溫 (攝氏)

前表の續き (主として徐家匯天文台の報告による)

測候所	省	北緯	東經	海拔 メーター	測候 年數	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年總 雨量	降雨 日數
厦門	福建	24°27'	118°05'	4	34	32.4	77.3	89.0	125.7	157.6	177.4	133.2	167.7	109.5	49.3	31.6	31.8	1,182.5	108.2
安東	遼寧	40°06'	124°21'	9	17	9.9	11.2	24.3	37.4	90.1	100.4	272.3	214.5	130.0	64.3	41.2	5.7	1,001.3	79.3
巴塘	四川	30°01'	99°03'	2,000	2	0.0	2.0	1.3	8.1	28.7	108.0	139.0	128.0	127.6	27.8	0.1	0.0	570.6	84.6
廣東	廣東	23°07'	113°16'	15	17	49.6	75.0	75.7	148.5	254.2	264.7	271.3	282.5	134.6	63.2	44.4	35.5	1,699.2	136.7
長沙	湖南	28°12'	112°47'	60	14	45.0	96.2	145.8	154.8	198.8	221.8	121.1	131.7	85.1	89.2	78.9	44.0	1,412.4	143.6
芝罘	山東	37°33'	121°22'	3	38	12.9	10.5	16.5	48.0	56.1	113.0	203.2	252.6	108.8	47.8	14.9	4.5	880.0	119.8
成都	四川	30°40'	104°03'	.....	6	8.4	10.5	12.2	15.8	61.3	71.3	193.1	187.7	79.7	26.7	13.6	2.1	673.0	71.9
秦皇島	河北	39°55'	119°38'	3	16	2.9	3.0	15.8	102.0	140.6	181.4	142.7	130.5	147.3	114.8	49.6	22.0	1,102.6	131.6
重慶	四川	29°34'	106°31'	230	28	16.5	20.0	35.2	26.7	46.6	49.7	160.7	123.2	114.9	30.7	26.2	9.5	628.1	77.0
大連	(關東州)	38°56'	121°16'	15	19	11.9	8.0	20.0	5.2	14.1	61.1	101.9	78.0	47.3	14.9	1.8	3.2	335.0	34.3
エルシチ エスキ	綏遠	40°36'	110°30'	1,025	7	0.3	3.8	3.4	121.8	149.7	208.1	161.0	182.0	214.3	50.9	41.4	47.2	1,434.7	102.0
福州	福建	25°59'	119°27'	20	35	47.0	96.3	115.0	32.0	58.4	90.4	225.1	117.4	62.0	20.9	16.4	12.4	678.7	67.9
扶溝	河南	34°09'	114°30'	.....	7	14.2	17.1	11.9	152.0	166.0	242.8	181.2	97.3	72.3	82.3	48.0	27.0	1,258.5	99.8
漢口	湖北	30°35'	114°17'	36	45	44.7	49.2	95.7	146.3	110.5	248.7	151.6	176.0	134.0	107.3	82.2	60.3	1,500.6	174.2
杭州	浙江	30°11'	120°12'	10	15	61.7	84.8	136.6	23.5	40.7	104.8	147.6	104.0	53.9	30.0	8.4	5.3	536.6	109.2
哈爾濱	吉林	45°46'	126°50'	147	18	4.1	5.9	8.4	49.8	111.0	45.5	103.6	159.5	163.0	48.6	32.5	12.4	739.7	70.1
興安	陝西	32°40'	109°15'	.....	3	3.6	2.5	7.7	134.9	304.2	402.5	356.0	371.9	247.0	130.1	43.2	27.3	2,162.3	156.5
香港	(英國)	22°18'	114°10'	32	41	32.7	44.5	68.0	8.0	27.3	57.7	109.8	89.2	28.0	6.2	1.6	2.6	341.7	28.0
猷縣	河北	38°17'	116°5'	.....	7	4.4	1.7	5.2	30.4	78.7	73.7	92.4	111.9	108.0	39.2	24.0	1.9	574.2	71.6
琿春	吉林	42°53'	131°18'	104	10	1.6	1.3	11.1	59.0	51.1	260.0	189.3	144.9	82.4	60.8	49.3	13.6	1,063.9	99.8
合安	安徽	32°22'	116°15'	.....	6	52.6	19.4	81.5	100.6	122.6	154.8	210.8	169.5	100.4	84.0	35.8	14.1	1,094.8	106.6
宜昌	湖北	30°42'	111°16'	518	42	19.5	29.1	53.6	3.5	44.1	46.3	139.6	92.0	30.1	15.7	2.5	1.6	385.7	53.3
張家口	察哈爾	40°48'	114°49'	2,470	6	0.7	4.1	5.5	28.1	87.4	137.7	208.4	130.9	37.3	35.0	2.5	0.0	669.6	65.8
吉林	吉林	43°48'	126°22'	210	3	0.0	0.0	2.3	181.2	173.9	242.7	143.4	131.4	88.6	97.0	68.1	43.3	1,465.7	123.5
九江	江西	29°45'	116°08'	20	40	62.5	82.7	150.9	17.5	53.1	87.5	172.8	144.4	67.5	38.7	13.4	3.8	618.0	101.5
公主嶺	遼寧	43°31'	124°48'	203	10	5.3	3.3	10.7	7.0	23.3	59.0	75.9	121.0	63.5	20.7	3.8	2.1	384.7	36.8
歸化城	綏遠	40°48'	111°38'	.....	5	0.4	4.5	3.5	85.1	165.7	164.5	247.9	87.6	164.5	113.4	45.1	15.4	1,169.0	168.5
貴陽	貴州	26°18'	106°40'	1,075	4	29.5	22.5	27.8	29.9	35.8	61.0	188.8	81.6	45.2	19.2	2.7	6.9	497.7	45.8
安山	山西	36°05'	113°03'	.....	6	6.9	8.0	11.7	84.6	171.4	216.0	222.7	231.4	133.3	53.6	40.8	21.6	1,269.3	96.6
龍州	廣西	22°22'	106°45'	266	28	19.2	27.0	47.7											

表四 平均雨量 (ミリメートル)

四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年總雨量	降雨日數
42.5	103.1	129.1	179.2	191.2	105.9	54.6	56.4	13.5	924.8	116.2
27.6	57.1	85.7	159.1	156.0	83.7	40.3	26.7	6.1	672.3	121.2
101.0	81.9	182.7	207.0	115.7	93.6	49.7	41.2	29.8	1,069.0	138.9
102.2	149.6	298.3	263.7	266.7	166.3	96.9	22.9	39.0	1,564.4	130.7
20.9	15.7	48.1	118.5	120.0	69.0	20.5	24.4	16.2	499.9	52.7
70.8	67.8	176.9	174.4	156.1	134.6	21.9	36.1	32.0	1,001.5	153.5
118.2	112.0	190.1	126.0	176.5	177.4	109.1	62.9	47.9	1,386.4	111.8
8.4	27.2	19.2	162.7	109.0	30.0	5.3	1.1	1.3	381.4	26.4
107.2	171.1	292.8	503.0	506.6	272.5	81.2	45.4	48.4	2,169.3	123.1
184.3	305.0	267.7	243.5	260.7	143.4	69.5	47.6	45.9	1,787.0	130.1
127.8	133.9	176.0	203.4	161.6	86.9	94.7	64.2	19.1	1,227.8	152.8
20.5	56.9	57.4	104.8	101.3	67.4	27.7	4.7	3.6	466.8	51.2
93.9	92.0	187.6	149.7	144.1	120.3	79.2	51.0	33.3	1,147.9	132.3
9.4	65.1	60.0	87.4	41.5	36.6	15.9	6.7	2.8	337.9	89.8
143.5	229.5	266.6	197.8	212.2	138.5	73.0	39.4	38.1	1,516.3	99.2
17.2	20.0	64.8	138.0	143.0	88.0	16.1	12.4	3.5	536.2	44.9
16.5	35.9	46.3	111.3	92.3	30.7	22.5	2.3	0.2	371.1	31.9
8.4	15.4	44.1	125.2	85.6	39.4	14.8	0.0	1.7	351.0	30.6
69.7	122.1	248.8	294.1	282.8	159.8	158.6	36.3	19.2	1,478.6	159.9
17.0	27.3	64.2	173.9	133.3	48.4	16.0	9.8	3.1	509.2	44.1
38.0	41.1	85.0	155.5	147.0	83.5	33.2	20.6	16.0	660.2	90.6
33.6	59.3	47.2	91.3	133.9	50.4	22.0	6.0	6.3	460.9	41.2
153.0	179.9	264.8	198.5	234.8	204.2	93.5	57.2	40.4	1,689.4	148.7
33.0	33.2	51.0	216.7	99.5	40.3	12.5	1.8	1.5	511.5	33.7
171.0	202.6	196.3	166.9	178.8	98.9	35.9	43.9	38.2	1,298.5	125.6
130.1	125.7	211.7	164.2	121.1	83.4	75.8	56.1	34.0	1,218.6	101.1
26.8	53.2	64.1	157.5	156.0	74.8	39.2	24.5	6.3	639.0	77.5
153.3	152.2	223.8	115.4	115.2	73.7	96.6	109.5	34.1	1,322.5	123.3
18.3	93.6	154.8	238.8	206.6	136.3	92.3	44.2	15.4	1,040.3	113.0

測候所	省	北緯	東經	海拔 メーター	測候 年數	一月	二月	三月
蒙	雲南	23°23'	103°24'	1,305	24	9.0	13.7	26.6
奉	遼寧	41°48'	123°23'	44	18	4.2	6.4	19.3
南	江蘇	32°05'	118°49'	16	20	41.1	50.2	75.1
南	廣西	22°42'	108°03'	122	5	38.4	61.5	58.9
宿	安徽	33°41'	117°02'	.....	7	107.7	9.2	25.7
南	江蘇	31°57'	120°55'	10	9	22.5	42.3	66.1
通	浙江	29°57'	121°45'	10	39	68.3	88.1	109.9
波	河北	28°53'	115°28'	22	4	0.5	6.2	10.5
定	廣東	21°29'	109°05'	5	39	32.0	33.1	76.0
海	廣東	23°06'	112°53'	10	25	41.8	65.5	112.3
水	湖北	30°18'	112°15'	51	15	31.4	42.1	86.7
市	湖南	34°50'	111°00'	.....	7	5.2	2.9	14.4
州	江蘇	31°12'	121°26'	7	52	49.8	59.6	87.4
海	察哈爾	40°58'	115°18'	1,167	15	2.1	2.6	7.7
ツ	廣東	23°23'	116°40'	4	44	35.3	62.5	79.9
汕	廣東	36°18'	115°18'	.....	15	10.8	9.1	13.3
大	河南	40°07'	113°13'	.....	7	0.9	4.9	7.3
大	山西	37°53'	112°29'	805	7	6.8	1.0	8.6
太	雲南	24°45'	98°14'	1,633	14	111.1	28.7	48.4
龍	河北	39°09'	117°11'	5	35	3.5	2.4	10.3
天	山東	36°04'	120°19'	74	26	10.6	9.8	20.2
青	陝西	34°30'	109°04'	365	4	3.0	0.5	7.4
通	浙江	28°01'	120°40'	3	40	46.6	93.8	122.7
溫	河南	35°26'	114°14'	.....	6	7.1	6.2	8.7
衛	廣西	23°29'	111°20'	10	26	30.3	49.0	86.7
輝	安徽	31°20'	118°21'	15	44	54.4	58.0	104.1
州	遼寧	40°41'	122°16'	3	22	5.5	4.9	26.2
湖	湖南	29°24'	113°10'	76	15	32.4	73.1	143.2
口	雲南	25°04'	102°40'	1,980	16	13.4	12.9	13.7

表四 平均雨量(ミリメートル) 「前表の續き」 (主として徐家漚天文臺の報告による)

三 氣候と人間

業は成り立たなかつた筈である。ヴィクトリアの市は、單に香港と云ふ島の名で呼ばれる慣例になつてゐるが、海拔一、八二五呎の峯に上る傾斜面及其麓に建てられてゐる。海上から港を隔て、此の市を選擇した夜景は、比類無き美しさである。無數の燈火は、山一面に輝いて、星を鏤めた夢の國とも見違ふ。

廣東市は、豐饒な沖積層平野の真中に位し、海の方に出て居るよりも、山の方に引込んだ形である。廣東市は、支那人間には、廣州とか番禺とか呼ばれて居るが、其の初めて建てられたのは、一〇五三年、支那人がタイ人種を追拂つて廣東を占領した時であつた。香港から汽車で四時間、船で一晝夜である。珠江の左岸に横はり、干潮のときは深さ僅に六呎であるから、底の浅い河蒸汽の外は入つて來ることが出来ない。

市そのものは、世界の要港には成り得ない位置にあるが、九哩下に行くと黃埔の水の深い處があつて、そこに大洋汽船を入れる港が出来さうである。豫備の測量の結果によれば、是れを港に開くには、黃埔の下に横はる一二、〇〇〇、〇〇〇立方ヤードの沙洲を、一立方ヤード一兩の費用をかけて浚深しなければならず、その八パーセントに當る位の費用を、毎年年用ひて、再び埋るのを防がなければならないが、さうすれば、ここに一等港を設けることが出来るといふのが、土木技師の證言である。それほど迄にして果して利益するところがあるか、自然の良港たる香港に取つて代り得るか、これは併し乍ら自ら二つの別問題である。

廣東市が將來海港として發達し得るや否やは、港の設備よりも、むしろ、その集積し得る商品の多少が問

題である。廣東市にして充分世界の船舶を着付けけるほどの商品を支配し得れば、船は必ず入つて來て、入港船が多くなれば、河の改良の問題も自ら解決するに違ひない。その時が来るまでは、政治的に、現在の經濟的並に地理的地位を左右せんとするは、早きに過ぎる。

廣東市は、全支那中、最も進歩的な、急速に發達しつつある都市の一つである。南方の諸市に先んじて、街を廣げ、古い市の石壁を取除いてしまつた。幾哩に亘る鋪裝道路并に郊外發展の様子は、全くモダン式である。河岸通は立派な五階から十階建の商館が櫛比し、全市が更新途上にある。これと對照して、ある部分は、舊式の狭い町で、人いきれに蒸返して居る。支那でも、こゝほど、新舊の對照の極端な市は少ない。廣東は、進化途上の市である。その新舊市街を歩いて見ると、現代から中世紀時代に旅して行く心持がする。この發達は、外國から歸つた支那人士の創意並に指導に依るものである。しかもこの進歩が、甚しい内政上並に政治的混亂の時代を通じて行はれた事實は、注目に値する。

## 九 進 歩 的 精 神

廣東及廣西の人民は、最も冒險的で勤勉なことを以て聞えてゐる。大膽、元氣、冒險的、活動的、獨立的、改進的、熱情的等の形容詞を頂戴してゐる。住民は、種々の民族から成つて居るが、此れ等の詞に當るものは、經濟的並に政治的生活を指導してゐる廣東市人である。兩廣の進歩的なのは、主に、都市に於ける現象

であつて、百姓の状態は、南支那の一般状態と變りはない。

何故に、兩廣の人間が、力に満ちてゐるのであらうか。暑氣が長く續き、倦怠を誘ふ濕度を以てすれば、人間活動は、鈍ぶるのが普通である。廣東市は、カルカッタ、ハヴァナ、リオ・デ・ジャネイロ等と同緯度の熱帯地内に在る。しかも熱帯内の海邊にあつて、これほどその住民が、活力を示して居る市は他に見當らないと言つてよいであらう。久しく外國人に接したからだと云ふ人もあるが、直接外人と、取引した者はその住民の少數の者に限られてゐる。若しこの論法で行くと、カルカッタも同じ筈である。

前世紀に於て、幾百萬の移民が、兩廣及東南海岸地帯から、外國に出て、世界の各地に散在してゐる。英國人以外には、これ程多くの人が、外國に居ないであらう。支那の外に住む一千萬乃至一千二百萬の支那人の大多數は、廣東及福建の人々である。この冒險家の多くは、富を得て、家郷の親類に、莫大の送金を爲すばかりでなく、貴重な外國思想を頭に入れて歸國した者も少なくない。

この國際的接觸が、廣東市人の性格に影響したとも思はれるが、この外にも大切な要因がある。南支那の住民は、北支那から移住して來るとき、淘汰されて來た。揚子江の南に重なる山々は、人間の濾過器となつて、強い者だけがその目を押抜けて來たのである。廣東人と客家民族とは、斯くして、特別な人種的素質を有するに至つたものである。

併し、初めが早かつたに拘はらず、今日の優勝争ひは、必ずしも兩廣側に有利とは言へない。北支那は、

刺戟的の氣候を有し、遙かに多量の石炭及鐵を有し、全國第一の農業地に恵まれてゐる。飢饉の呪詛は、人口過剰と山林濫伐の結果であるから、將來必ずしも打勝ち得ないことは無い。

人力車と車夫の速度とを、廣東と北平について比較して見ただけでも、北支那の方に團扇を上げなければならぬ。北支那人士は、南支那の人力車のやうな不愉快なものには、決して乗らないであらう。南支那の人力車は、つい最近まで、木造の車輪に、タイヤでなく硬ゴムを嵌めた時代後れのものであつた。廣東市の車夫は、到底、北支那の市の車夫と競走は出來ない。濕氣八〇パーセントを含む氣候の下には、競走などする氣は起らないのである。

兩廣山地の鐵道敷設は地形上困難であるには相違ないが、さう言へば、黃土高地は、こゝよりも一層工事上の難問題があるに拘はらず、鐵道の延長は長い。兩廣が指導的地位に上る前に、説明を要する幾多の、むしろ後退的傾向ありと言はざるを得ない。